

2024年08月20日(火)【外為Lab】松田哲  
タイトル:【いよいよ「ジャクソンホール会議」】

「お盆休み」が明けました。

今週は、いよいよ恒例の8月下旬の「ジャクソンホール会議」が開かれます。

今年(2024年)の「ジャクソンホール会議」は、8月22日~24日に予定されています。

+++++

「ジャクソンホール会議」とは、米国のカンザスシティ連邦準備銀行が、ワイオミング州のジャクソンホールで、毎年夏に開く金融・経済シンポジウムのこと。

過去の例では、2010年8月に、当時のバーナンキFRB議長が、量的金融緩和第2弾(QE2)に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に影響を与えた。

+++++

今年(2024年)の「ジャクソンホール会議」が、特に注目されるのは、米国の今後の利下げに関して、何かしらの示唆があるのではないかと考えるからです。

上述の通りに、「ジャクソンホール会議」での講演がきっかけとなり、その後の金融市場の流れを決定づけることになった過去の経験があります。

だから、毎年の8月下旬は、この会議に集中するのです。

+++++

+++++

直近のFOMCを振り返ると、先月(2024年7月30日、31日)のFOMCでは、政策金利据え置きを決定した。

8会合連続での政策金利据え置き。

ただし、パウエルFRB議長は、以下の旨を述べています。

「次回9月のFOMCで、政策金利引き下げの可能性がある」

++++  
++++

その前のFOMCは、今年6月（2024年6月11日、12日）でした。

この今年6月（2024年6月11日、12日）のFOMCでも、政策金利据え置きを決定した。

この時点では、7会合連続での政策金利据え置き。

そして、この6月の会合で、以下の旨を述べています。

FOMCは、年内（2024年内）の利下げ回数を1回と予想し、来年（2025年）により多くの利下げを行う見通しを示した。

それ以前の3月のFOMCでは、年内（2024年内）の利下げ回数を3回と予想していた。

++++  
++++

今年6月（2024年6月11日、12日）のFOMCを見ると、意識的に政策金利を高止まりさせた感がある、と考えます。

この6月に政策金利を据え置いた際には、7月の利下げの可能性を示唆していません。

それで（示唆していなかったので）、先月（2024年7月30日、31日）のFOMCでは、政策金利据え置きを決定したようにも受け取れます。

換言すれば、先月（2024年7月30日、31日）のFOMCでの利下げのタイミング（機会）を、失したようにも見えるのです。

ただし、この辺りは、そのようにも見える、といった印象に過ぎないので、強弁するつもりはありません。

++++

今週の「ジャクソンホール会議」でのパウエルFRB議長の講演で、その辺りのことも含めて、今後の米国金融政策に関して、重要な発言や示唆があるのではないかと考えています。

++++  
++++

(2024年08月20日東京時間13:45記述)